



麻生は自然環境に恵まれ、夏にはホタルが幻想的に舞います



このコーナーでは、小学校区単位(地区)でまとまって地域活動に取り組む「地域コミュニティ組織」をご紹介します。



麻生地域づくり協議会

みんなで築こう 麻生の里



高野堂入口で見守る仁王像

これまで、麻生の自然や名勝・史跡などの文化財を維持しようと、高山の登山道や仙岩山の宝陀寺奥の堂参道、高野堂の周遊路での草刈りや清掃活動など周辺整備を行ってきました。

麻生地域づくり協議会は、豊かな自然と歴史を持つ麻生を次世代に継承していくことを目指し、発足から8年、地域貢献に取り組んでいます。

活動の一環をご紹介

合言葉は「みんなで築こう！麻生の里」



会長
城さん

麻生の散策
おすすめスポット

名勝耶馬溪 仙岩山

仙岩山は、奇岩と奇峰が連なる独特的な風景を成す標高600m弱の山で、耶馬日田英彦山国定公園の一部に指定されています。天気の良い日は、美しい岩山の奥に広がる周防灘まで見渡すことができ、訪れた方の心を和ませてくれます。また、秋には岩肌と紅葉の目の覚めるようなコントラストを楽しむこともできます。



問合せ／まちづくり推進課 コミュニティ係 (☎ 27-8237)

世界かんがい施設遺産 その2

宇佐市長 是永修治

平安時代末期、宇佐神宮大宮司であつた宇佐公通（以下、公通という）は、九州一円に莊園を有し、妻は平清盛の娘という説があるほど絶大な力を持つていました。公通は地区住民救済のため、駅館川西部の開発に着手します。宇佐平野は瀬戸内気候で降水量が少なく、駅館川は大雨が降れば氾濫、日照りが続ければ干ばつという有様でした。

しかも、平野部は5km行って1m低いだけの勾配。農業用水を安定的に確保するには、資金はもとより高度な技術と大量の人手が必要でした。

公通が工事に先立ち鷹栖觀音堂にこもると『12匹の白蛇が這つた筋の通りに水路を開削すべし』というお告げを得ます。白蛇伝説です。神仏の権威をうまく利用した公通は、まず木杭を打ち、石を積み、芝でつなぎ

止め、土盛りして堰を築造。そこから氾濫した際、水が流れたルート（白蛇ルート）をベースに約25kmに渡り水路を開削。水争いが起きないよう用水取水を時間ごとに取り決めました。これを「時水」と呼びます。

1156年、ついに平田井路が完成、受益面積は140ヘクタールに及びました。現在は国営事業などにより1546ヘクタールまで拡大していますが、水路は当時とほぼ同じルート。当時の技術力の高さに関係者一同舌を巻くばかりでした。次回は広瀬井路を紹介します。



円形分水

平和ミュージアム（仮称）開館に向けて
kioku wo tsunagu

記憶をつなぐ

このコーナーでは「宇佐市平和ミュージアム（仮称）資料館」の開館に向け、これまで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

39 慰問帳

戦時中には、国外の戦地にいる将兵に子どもたちの絵や手紙などを入れた慰問袋が送られました。将兵にとって国内や郷里の様子を知り癒されるものでした。この慰問帳は、別府市亀川国民学校初等科6年の女子児童15人が描いた絵画がとじられています。元々は別府市のお寺に保存されていたもので、実際に戦地に届いたかは不明です。

■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係（☎ 27-8199）にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室（☎ 27-8200）

